

IAUD Newsletter vol.8 第5号(2015年8月号)

1. IAUD 第4次中期活動計画 概要のご紹介	1
2. グローバルインタビュー報告②	4
3. 48時間デザインマラソンワークショップ in 東京 参加者募集	7
4. UD 検定・中級公式テキストブック発刊及び第7回 UD 検定・初級実施のご案内	8
5. 「第5回国際 UD 会議 2014 in 福島&東京」論文集 好評販売中	9
6. IAUD 8月、9月の予定	9

東京 2020 オリンピック・パラリンピックへ向け UD の普及と実現へ IAUD 第4次中期活動計画 概要のご紹介

IAUD は 2015 年 4 月に、第 4 次中期活動計画を策定しました。

第 4 次中期活動計画は、2010 年度に策定した第 3 次中期活動計画を振り返るとともに、更なる IAUD の成長、発展を目指して、2015 年 4 月から 2019 年 3 月までの 4 年間の活動指針とします。

また、この 4 年間は東京 2020 オリンピック・パラリンピックに至る環境整備期間にあたるため、「一人ひとりの人間性を尊重した安全・安心な社会環境づくり」を目指す IAUD としては、UD の普及と実現を果たしつつ自らの存在意義を示す絶好の機会であり、一層の奮闘、努力が期待されています。

今号の Newsletter では、第 4 次中期活動計画の概要をご紹介します。



成功裏に終了した「第 5 回国際 UD 会議 2014 in 福島&東京」(東京・お台場)

IAUD の理念とビジョン

IAUD は、UD のさらなる普及と実現を通して、社会の健全な発展に貢献するとともに、日本発の UD を広く世界に発信し、みんなが平和に快適に暮らせる社会を目指します。

また、民族、文化、慣習、国籍、性別、年齢、能力等の違いによって、生活に不便さを感じる事無く、“一人でも多くの方が快適で暮らしやすい”社会づくりを目指します。

そのために、以下の 3 つの視点で活動しています。

- ① 社会全体の UD 基盤整備
- ② 企業・団体による UD 製品・サービスの提供
- ③ 生活者のための UD 風土の醸成

第 3 次中期活動計画の振り返り

第 4 次中期活動計画策定に際し、第 3 次中期活動計画(2011~2014 年度)の達成状況の評価を行い、上述の 3 つの視点に関して検証しました。

①「社会全体の UD 基盤整備」

国際 UD 会議を契機に中央官庁や地方自治体との関係を深めることができ、徐々に UD 基盤整備に貢献する体制が整いつつあります。

また、国内外から国際 UD 会議に参加した産・官・学・民等多くの方々を通して、広く UD の効用が認知されるに従い、おのずと国や自治体が行なう様々な事業にも反映されていることが感じられ、それは国際 UD 会議の回数を重ねるごとに強まってきています。



UD2014 開会式では安倍晋三内閣総理大臣からビデオメッセージを頂戴した

②「企業・団体による UD 製品・サービスの提供」

各企業・団体においては具体的な開発成果が生み出されています。特に、電機、自動車、住宅設備等の製造業においては、UD はもはや商品開発の基本機能として認識されるに至り、この 10 数年で急速に業界内または個々の企業内に浸透してきました。



48 時間デザインマラソン in 東京(東京・芝浦)

会員企業においては、研究部会が行なうテーマごとの活動や 48 時間デザインマラソンへの参加を通し、確実に企業内にその成果を持ち帰り、自社の商品開発力向上や企業文化の醸成に寄与していることが認められます。

さらに、IAUD アワードも回を重ねるごとに産業界に認知され、大賞、金賞などの表彰は、それぞれの企業イメージの向上にも大いに貢献していることがうかがえます。

③「生活者のための UD 風土の醸成」

直接的には UD 検定初級・中級の実施により、一般の生活者に UD の考え方や意義を理解してもらう仕組みが確立したといえます。

ただ、UD 検定に関心のある人々を主な対象としていることから、その影響を受ける範囲は現時点においてはまだ限定的と言わざるを得ず、検定の認知度が上がるに連れ、その裾野は次第に広がっていくことが予想されます。



第 1 回 UD 検定中級(東京・芝)



国際 UD 会議 2014 展示会場 (東京・お台場)

また、IAUD が定期的実施する定例セミナーや国際 UD 会議の参加者に対しては、それらの講演内容や商品展示等から、ユーザーを取り巻く生活環境が従来と比べ確実に改善の方向に向かっていることを実感いただいているものと考えます。

IAUD における新たな成長計画

第4次中期活動計画については、第3次中期活動計画の達成状況を踏まえ、IAUD 理念、ビジョンを達成するための新たな成長計画として、引き続き以下のような活動方針を策定しました。

①「研究」「普及」段階から「実現」段階へ

UD 製品・サービスにとどまらず、各業界の垣根を超えた社会システム・UD 基盤構築に向けた研究テーマ、普及活動に取り組み、その成果を基に国や自治体への具体的な提案と協働を行い、法律、政策、条例等の仕組みづくりに貢献できるよう、「研究」「普及」段階から「実現」段階へ積極的に事業を展開します。

②国際 UD 会議が中心事業

過去5回の国際 UD 会議開催経験とその成果に鑑みて、国際 UD 会議を IAUD の中心事業と位置づけ、国内外への活動成果の発信、コミュニケーション活動として隔年ごとの開催を行ないます。

同時に、UD 検定、UD 施設認定、IAUD アワード、ワークショップ等の自主事業を育成しつつ、盤石な財政基盤を確立するため、当面は一般財団法人として運営整備します。



アワード 2014 表彰式 (東京・お台場)

アクションプラン

① 基本活動

[研究開発] 外部機関、専門家との連携による UD プロジェクト研究の推進

[活動成果の発信] 公式ウェブサイトの充実、各種メディアを活用した広報の拡充

[自主事業の育成] 48 時間デザインマラソン、IAUD アワード、UD 施設認定、UD 検定 (初級・中級) 等の事業育成および認知度向上

② 重点活動

[国際 UD 会議] 第6回を2016年、第7回を2018年に開催

[オリパラ連携] 2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックへ向け、特に省庁、自治体、関係団体との連携強化

③ 強化活動

[国際連携] 海外 UD 研究機関、団体との連携強化

[国内連携] 省庁、自治体、教育機関、学会、NPO 等との連携拡充

[運営体制] 一般財団法人としての盤石な組織体制構築



情報交流センターでは、2014 年 11 月に開催された「第 5 回国際 UD 会議 2014 in 福島&東京」において、海外からご参加いただいた有識者 5 名に、「UD のグローバル展開～東京 2020 オリンピック・パラリンピックへ向けて～」をテーマにしたグローバルインタビューを実施しました。

各有識者の方々には、日本の UD への印象、出身国や活動されている国の UD 状況及び日本との比較、さらに 2020 年に向けて日本の将来の UD に必要なことは何か、など伺いました。

今号の Newsletter では、リカルド・ゴメス氏（サンフランシスコ州立大学教授：米国）、シルヴィオ・サグラモラ氏（欧州障害フォーラム代表：ルクセンブルク）のインタビューを掲載します。（インタビューア：情報交流センター所長 北村和明）

※インマ・ボネット氏（デザインフォーオール財団最高顧問：スペイン）、フェルナンダ・ハラダ氏、（人間中心デザイン研究所客員デザイン研究員：米国）、マリア・ベンクソン氏（ヴェリデイ代表：スウェーデン）のインタビューを掲載した IAUD Newsletter vol.8 第 4 号（2015 年 7 月号）はこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1507/10-160758.php>

人種、文化、経済等の違いで UD の意味や利用法は変わってくる

グローバルインタビュー4:リカルド・ゴメス氏（サンフランシスコ州立大学教授：米国）

日時：2014 年 11 月 13 日 12:00～

—現在の UD を取り巻く状況と日本の UD についての印象をお聞かせください。



まず、UD は 1991 年に始まって今に至っており、これまで多くの人が様々な意見を表明し、成長と共に多様な発展をしてきました。UD に関する傾向としては、高齢者にももっと対応していこうという流れがあると思います。

用語の使い方について言えば、私は UD とインクルーシブデザインを同じ意味で使っています。

UD という言葉はアメリカや日本でよく使われ、インクルーシブデザインはイギリスなどヨーロッパで使われることが多いと思います。デザインフォーオールという言い方もよくされております。

←インタビューに応じるゴメス氏

UD という言葉が使われ始めた当初は、西洋の工業化の進んだ国々で作られ、確立し、実践されましたが、やがて発展途上国でも採り入れられ、使われるようになりました。2000 年にロードアイランド州プロビデンスで UD に関する国際会議があり、発展途上国から UD に関して発言する機会が増えたのはその時からです。今回の「第 5 回国際 UD 会議 2014 in 福島&東京」では、ショーン・ドナヒュー氏がウガンダにおける UD の発展についてお話しされました。

西洋と発展途上国とでは視点や状況が異なるため、各国の条件に応じて UD の意味合いや解釈には違いがあります。

工業化が高度に進んだ西洋諸国の価値観や理想など多くの要素の中には、発展途上国ではインフラや工業国の経済特有の状況が欠如しているため実現できないものもあります。

従って、私たちは今、UD の概念について再評価すべき段階、あるいは UD の意味とその利用法をよりインクルーシヴかつ多様なやり方で再考すべき段階に来ていると考えています。

今申し上げたことについて、例を挙げたいと思います。今回の国際会議の発表でもお話ししましたが、オリンピックとパラリンピックは区別されている面があります。この2つのダイナミックな世界的スポーツ大会を、一緒にブランディングする努力が必要だと思えます。

このように UD が発展するにあたり、ある段階では UD は全てがインクルーシヴなもの、誰もが共通の価値を分かち合えるようなものになる必要があると思います。しかし、その中で、性別、経済領域、人種、文化等の違いによりニーズが分かれることもあると思います。



北村所長(左)とゴメス氏

日本では UD に関して素晴らしい例が示されています。IAUD の成功と、それが長年の間にいかに大きく進歩してきたかを見れば分かります。テクノロジーを採り入れ、非常に近代的で、消費者目線を中心に据えていますね。ユニークで、日本の文化、経済、社会の状況を反映しています。

しかし、ここ日本で示されているのと同じものをウガンダで応用、活用しようとしても、必ずしも適切ではない場合があります。

なぜかと言いますと、経済状況と所得水準が違うからです。今日の発表で紹介された方法でウガンダでのリソース配分を行えば、結局人口のほんの一部しか UD のメリットを享受できないでしょう。

とりあえず、経済領域、経済そのもの、そして人口比も異なります。日本では 65 歳以上の人口が 25 歳以下の人口を上回っていますが、ウガンダでは状況が逆だと思います。このように、環境の違いがたくさんあります。

最終的にはリソースをどう配分するかも変える必要があるでしょう。ウガンダなどの場合、UD は特に子どもや若者への医療と健康サービスの提供について考えたものになると思いますが、日本の UD の場合は、特に高齢者の支援の方法と高齢者の健康について考えなければなりません。

このように、ウガンダと日本を比べると違いがあります。ですからその適用は状況によって特徴が異なるのです。

最後の分析として、UD というものにはフィルターが必要ではないかと思えます。

例えば人種、文化、経済などがフィルターになると思いますが、これは日本で適応する際にも使用しなければならないものです。UD の 7 つの原則について触れましたが、その 7 原則を利用するにはこうしたフィルターをかけることが重要になると思います。

日本とウガンダは違いますし、高度に工業化が進んだ社会と低所得の農業社会の間でも違いがあるでしょう。

UD はパレットのようなものだと思います。このパレットはいろいろなレベルで提供されます。つまりフィルターをかけることによって、UD を効果的で誰もがその実践を担えるようなものに変える必要があるというわけです。

まとめとして、冒頭で UD とインクルーシヴデザインという用語を同じ意味で使用していると申し上げましたが、インクルーシヴデザインには経済領域という概念が備わっていると思います。

UD が考案されたときと比べると、インクルーシヴデザインには、UD について元々考えられて

いた範囲を超える枠組みが含まれているように思うのです。

例えばジェンダー、文化的問題、社会などさまざまな状況に応じて、変化する物事が異なります。

ですから UD とインクルーシヴデザインの原則は人に押し付けるものではなく、対象となるユーザーとユーザー固有の集合的ニーズ、社会における多元的福祉に焦点を当てた協同作業として確立し、展開すべきだと思います。(了)

日本の UD は大変高い水準にあるが、情報面の強化をしてほしい

グローバルインタビュー5:シルヴィオ・サグラモラ氏

(欧州障害フォーラム代表:ルクセンブルク)

日時:2014年11月13日 12:20~

—ご自身の国の UD について特徴をお聞かせください(誇れる点や既に普及している点)。



まず、私どもの国ルクセンブルクでは UD という言葉の代わりにデザインフォーオールと言っており、どちらかと言えば政治的、社会的側面からの取り組みとなっていて、産業レベルではまだ定着していません。

この点は政治家がデザインフォーオールについて語る場合にやや問題となることがありますし、国民はその概念と結びつけて考え方を理解しているのですが、この用語に関する実質的な知識水準はかなり低く、この概念が体系的には実践されていないという問題があります。

←インタビューに応じるサグラモラ氏

—デザインフォーオールの普及を進めるためにどのような苦勞をされているのでしょうか。

私が所属している欧州障害フォーラムは、ルクセンブルクの全国的な情報センターのような機能を果たしています。その役割の中でも特に力を入れている活動は、障害をもつ人々のインクルージョンの推進に向けて、デザインフォーオールの取り組みをどう適用するかについての研修などです。

例えば、顧客である国営鉄道会社に対しては、新たに採用された従業員向けの研修を実施しています。その中には障害をもつ方々もおおり、これは受講者にとって非常に重要なことだと考えています。

障害者の方々が色々なタイプの障害物によってどう排除されているかを、より一層理解できるためです。ただし、障害者のニーズだけでなく、異なる多様な人びとのニーズにも注目するようにしています。そうした障害物を無くすことで、質を高め、皆にとって快適な暮らしを作っていくことができると説明しています。

—今回の会議で発表を聴き、企業の展示をご覧になって、日本の UD に対してどのような印象をお持ちでしょうか。

私自身はまだ日本の UD について十分知らないと感じていますが、この会議で分かったのは、日本で実現されている水準が非常に高いということです。

ルクセンブルクと比べてもそうですし、EuCAN ネットワーク(アクセシビリティネットワークのた

めの欧州コンセプト)の調整役を務めていて訪れた他の国々と比較してもそうです。私が日本で見たものは、ヨーロッパ諸国で見たものより高いレベルにあります。

先ほど UD は社会的、政治的側面からの取り組みが多いと言いましたが、日本の場合はもっと体系的な形で実際に導入されていると思います。デザインフォーオールと UD は非常に多様な技術的解決策を通じて認識でき、それが日本の特異な点だと思います。

—東京の街をご覧になって、UD の普及具合をどのように感じられましたか。

とても良い印象を持っています。ただ、一つだけ気づいた問題は標識です。情報によっては日本語しか用意されておらず、海外から来た人には少し分かりにくいと感じました。

その一方、電車や地下鉄については、色と数字を使ったシステムの仕組みを一度理解すればとても利用しやすいですし、英語の情報もあり、良いと思いました。街なかでも言語の問題を改善できれば良いですね。

今回の国際会議中に、アワード 2014 を受賞した展示パネルを拝見しましたが、残念ながら日本語のみのものがありました。そうすると図版しか理解できないため、内容がとても興味深くて、言葉のせいで詳しい情報を入手できないのは残念に感じました。

—2020 年には東京でオリンピックとパラリンピックが開催されます。それに向けて IAUD が何を準備すべきか、ご意見とアドバイスをありましたらお願いします。

私が日本に来て感じたのは、誰もが本当に熱い期待を抱いているということです。皆さんがオリンピックとパラリンピックをもっと結び付けたいと考えているのは素晴らしいことだと思います。

また、オリンピック委員会のビジョンもウェブサイトで読みましたが、将来の世代に大会の遺産を引き継いでいくという内容で、感銘を受けました。将来について考えることはとても大切なことだと思いますし、そうした考え方は素晴らしいと思います。

アドバイスとしては、先ほども触れましたが情報面です。例えば道案内をする設備があると良いですね。それ以外の面については、非常に高い水準をもう既に達成していると思います。(了)

※これまで実施したグローバルインタビューはこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/globalnet/index.php>

東京の下町から未来のデザインを 「48 時間デザインマラソン in 東京」参加者募集

IAUD は今年で 13 回目を迎える特別ワークショップ「48 時間デザインマラソン in 東京」(後援: 芝浦工業大学、墨田区、東京東信用金庫)を 9 月 9 日(水)から 9 月 11 日(金)の 3 日間、芝浦工業大学芝浦キャンパス(東京・芝浦)で開催します。

デザイナーはユーザーと一緒に調査検証を行いながら、2020 年のオリンピック・パラリンピックを見据え、生活に密着した街や暮らしのあり方を下町からデザインします。



昨秋の「48 時間デザインマラソン in 東京」

今回は墨田区で起業家支援を運営されている(株)浜野製作所様の協力を得て、実際の製作現場の見学や交流を行うことで、地域からよりリアルなデザインのフィードバックと検証を行います。現在、デザイナーの参加者を募集しております。

また、各チームの公開プレゼンテーションを9月11日(金)14時30分より、東京東信用金庫本部10階ホール(東京・両国)で開催いたします。

詳細は近日中にIAUD ホームページに掲載します。

<http://www.iaud.net/index.php>



UD 推進に必要な知識を習得

UD 検定・中級公式テキストブック発刊及び第7回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験実施のご案内

UD 検定・中級公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」が発刊されました。

本書は各専門分野の第一線で活躍する方々が執筆し、具体的な事例を含めた広範な UD の知見をまとめました。UD 検定・中級の試験問題は本書に準拠して出題されます。

また、検定受験者だけでなく、すべての人にとって使いやすい商品やサービスを提供したい、住みやすいまちづくりをめざしたい、とお考えの方々にも非常に役立ちます。UD に関心のある方は、ぜひ本書をご利用ください。

公式テキストブックの詳細は以下をご参照ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1410/14-000000.php>



UD 検定・中級公式テキストブック

また、IAUD では、「第7回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験」を2015年9月11日(金)に芝浦工業大学芝浦キャンパス(東京・芝浦)で実施します。

今回も、講習会(2時間)とUD 検定・初級試験(1時間・50問)のセット形式です。

合格者には「UD 検定・初級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。

第7回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1505/19-100000.php>



第6回 UD 検定・初級の様子
(東京・芝浦)



「第5回国際UD会議 2014 in 福島&東京」論文集 好評販売中！

IAUDでは、2014年11月に開催された「第5回国際UD会議 2014 in 福島&東京」の論文発表セッションで口頭発表された査読論文を収録した論文集 CD-ROM(監修:人間中心デザイン研究所所長ヴァレリー・フレッチャー)を販売しております。



主なテーマは、オリンピック/パラリンピックへの提言、住宅・建築、交通、製品デザイン、地域デザインなどです。この機会にぜひご購入ください。詳細は以下をご覧ください。

<http://www.iaud.net/news-f/archives/1506/09-092621.php>



IAUD 8月の予定

8月5日現在

月	火	水	木	金	土	日
3	4	5	6 14:40～ メディアのUDPJ @富士ゼロックス	7	1/ 8	2/ 9
10	11	12	13 事務局夏季休業	14	15	16
17	18	19	20	21 アワード2015 第2次審査締切 13:30～ 標準化研究WG @東芝 15:00～ 手話用語SWG 全国ろう学生の 集い@栃木県青 年会館	22	23
24/31	25 15:00～ 運営委員会 @IAUD サロン	26	27	28 13:30～ 研究部会合同 WS@富士通デザ イン	29	30

IAUD 事務局とサロンの夏季休業のお知らせ

事務局とサロンは、以下のスケジュールで夏季休業となります。

【事務局】8月13日(木)、14日(金)

【サロン】8月10日(月)～8月14日(金)

月	火	水	木	金	土	日
	1 9:00～ 移動空間&メディア PJ アリゾナ州立大学との WS @富士ゼロックス	2	3	4	5	6
7	8	9 9:30～ 48 時間デザイン マラソン in 東京 @芝浦工業大学	10	11 9:00～ 第 7 回 UD 検定・ 初級 @芝浦工業大学	12	13
14 13:00～ 手話用語 SWG @IAUD サロン	15	16 10:30～ 余暇の UDPJ CM 字幕意見交 換会 @IAUD サロン	17	18	19	20
21 敬老の日	22 国民の休日	23 秋分の日	24	25 15:00～ 標準化研究 WG @IAUD サロン	26	27
28	29	30				

Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例の情報、国内外の UD 関連イベント、シンポジウムなどの開催情報をお寄せ下さい。

次号は 2015 年 9 月中旬発行予定

特集:手話用語 SWG 第 35 回全国ろう学生の集い in 栃木 ワークショップ開催報告(予定)

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : salon@iaud.net